

にぎやかにお手伝い



(上) おしもん(お菓子)に色をつけます  
“ちょっと筆を止めて”



(左) きれいにお荘厳されたお内陣で  
住職が導師でお勤めしました  
(11月28日)

ようこそ

第 9 号  
浄土真宗本願寺派  
円光寺  
〒870-0108  
大分市三佐3-15-18  
TEL097-527-6916  
FAX097-527-6949

ご門徒衆のたのもしさ

毎年十一月は、お寺が大変にぎやかになります。二十六日から二十八日までお勤めさせていただく御正忌報恩講の準備で、大勢のご門徒衆がこのご縁にお寺に馳せ参じてくださいます。

報恩講は、ご開山・親鸞聖人のご法事で、私たち浄土真宗門徒にとっては一年の一大事、最も大切な仏事です。

十月末に総代世話人会を開いて、報恩講の日程内容を確認し、ご懇志のお願いをします。

お寺の法要行事は、ご門徒皆さんのご懇志で勤まります。各地区ごとにお世話人さんがご懇志を集めてお寺にはこんでくださいます。「御正忌米懇志」といって、昔はお米があがっていました。

そのお米で、仏さまにお仏飯を、おもちを、お菓子をお供えし、そのおさがりをいただいて、先人は生活を営んできました。そして、私たちもまた仏さまにお育てをいただいています。仏さまと私が懇ろになる尊いご縁です。

人と人とのつながりが薄くなったといわれますが、報恩講はお寺とご門徒の距離をずっと縮めてくださいます。ご門徒皆さんのお手伝いがなければ報恩講はお勤めできません。

今はお金を出せば何でもきれいに出来ることばかりですが、円光寺には先人からの伝承が多く残っており、とにかく準備が大変です。でも、この大変さが何とも有り難いご縁となっています。

ご門徒衆の頼もしさを強く感じます。多忙な日々の生活にあって、おみがき、お菓子作りから色付け、お飾りつきからお飾り申しと、にぎやかにご加勢をしてくださいます。あざやかにお荘厳されたお内陣で報恩講のお勤めをさせていただくことは、住職にとってこの上ない喜びであります。

おかざり色付け



赤と緑の色粉で模様を入れます

おかざりもうし



くしにさした小もちを組んでいきます

おかざりつき



丸い型で小もちを切り抜きます

おみがき



仏さまのお道具をみがきます

＊ ご門徒皆様の  
ご懇念をいっぱい  
寄せていただきました。  
おかげであります  
ございました。 ＊

おしもん(お菓子)



3種類の木型でらくがんを作ります

お花講



仏さまのお花をいけます



御尊前のお荘厳

阿弥陀さまを中心に、お仏飯、  
おもち(白)、おもち(色付)、  
お菓子(色付)、果物を供えます。

お菓子もうし



お菓子を飾りつけます

おかざり配り



お疲れさまでした。  
ゆっくりしてください。



おさがりをご門徒に配ります



おかざりのくしもちを切り分けます

### お朝事「法話」より

昨日お昼のテレビニュースで、徳島市の崖っぷち犬の報道がありました。どうしてそうなったのかわかりませんが、犬が一匹地上数十メートルの絶壁に取り残され、六日間吞まず食わずの状態で、レスキュー隊まで出動して大掛かりな救出作戦になったということでした。

正午前に救出された模様は全国に生中継され、現場では皆さんが心配して見守る中、助かった瞬間には大きな拍手がわきあがっていました。

たかが犬一匹のことで、そこまでしなくてもいいのにという声も聞かれそうですが、高い所に一匹だけ閉じ込められ悲しげに鳴く犬を見て、果たしてそのまま放っておくことができるのでしょうか。

何とかしてあげたい、助けてあげたいと思います。犬のいのちに我がいのちを重ねて見ているのです。

このように、私たち人間は優しい心ももっています。また、残虐な心も合わせています。最近の学校現場でのいじめの問題のことというとうと、いじめ

いる子は「お前なんか死んでしまえ」と言うんでしょうか。それも大勢で、軽い気持ちで言ったことでも、言われた方はたまりません。誰も声をかけてくれず独りぼっちになって、誰にも相談できずに、自ら命を絶つてしまうことにもなります。

でも本当のところはどうなのでしょう。か。「お前なんか死んでしまえ」と言つて、本当に死んだらいいと思つているのでしょうか。

ちようど崖っぷちの犬を見るように、もしいじめられている子が今にも死のうとしているところを見たときに、「お前なんかそこから飛び降りて死んでしまえ」と言うのでしょうか。いや「助かってくれよ」と思い、助けようとする手尽くすのではないかと思つています。

仏さまから見ると、犬一匹のいのちもこの私のいのちも同じ、重くて尊いものなのです。阿弥陀さまという仏さまは、人間だ

## ともにいのちかがやく世界へ

私たちの教団がすすめる

『基幹運動』のスローガンです



(十一月二十三日)

けではなくて、すべての生きとし生けるものを救おうとおはたらきです。

「お前のいのちをそのまま引き受けた。我にまかせよ、必ず救う」と南無阿弥陀仏と成つてこの私を呼び覚まし、「私がいづも一緒だよ。どんなことがあつても決してあなたを見捨てない。独りぼっちにしないよ」と、いつでもどこでも私のいのちに寄り添つてくださるのです。

今、いじめられている子も、いじめられている子も、共にいのち輝く世界に生まれさせようとおはたらきなんです。

南無阿弥陀仏とお念仏申しつつ、今日一日も生き抜かせていただきますように。

### 世々生々

鮮やかなオレンジ色のジャンパーと帽子の大人たちが町の角々に立つようになつた。「三佐校区見守り隊」という。小学校から下校する子どもたちを見守っている。昨今の幼年を襲う凶悪犯罪に全国各地で地域住民が敢然と立ち上がった。

◆ちよつと前までは、地域の子どもはみんな家族同然に、大人たちから声をかけられ、悪いことをした時は叱られもした。いづも誰かにあたたかく見守られていた。子どもは地域の宝と、地域が子どもたちを育ててきた。

◆その地域の中心にお寺があつた。お寺のご縁に子どももじいちゃんばあちゃんと一緒に参りした。友だちも来ていた。行儀良くしていると誰彼となくほめてくれた。ご縁の後で仏さまからおさがりのお菓子をもらうのが楽しみだった。◆三佐では春の彼岸のお中日におせつたいがある。各地に伝わる弘法大師の信仰行事で、当番の家々でお菓子が振る舞われる。誰もがひもじい思いをしていた頃、おせつたいが待ち遠しかった。多くの家々を回り何日分のおやつができた。◆仏さまのあたたかい眼差しとお育ての中に、子どもも大人も共に生きている。

# コンペという名の球技大会

晩秋の久住高原に、コーン、カーンと球を打つ音が響いています。今日はわが円成会グラウンド・ゴルフ・クラブ恒例の第十回G・Gコンペです。

十一月二十九日、療養中の一を除き、男性六名、女性十名の会員一同は、宿舎専用の送迎バスで九時三十分、円光寺を出発し、トイレ休憩を含め約二時間で、国民宿舎「久住高原荘」に到着しました。軽めの昼食を済まして早速グラウンドへ繰り出しました。二、三十分間の練習でグラウンドに馴れたところで、四組のグループに分かれ、第一、第三、第五、第七のポールポストからスタートして、八つのポールポストを三回廻って、



久住連山をバックに会員の皆さん



コンペのようす (11月29日)

いかに少ない打数で廻り終えるかで優劣を競います。当日は久しぶりの好天に恵まれ、久住の山々もその勇姿を見せつけ、冷たい高原の風も心地よく感じました。練習時間を含め約二時間で予定の競技を終了し、温泉で汗を流し、それぞれの部屋で一日の疲れを癒しました。午後六時から表彰式を始め、優勝した都田さんに優勝トロフィーを呈呈、入賞者それぞれに賞品を呈呈しました。「久住高原荘」からも一位、三位の賞品とホールインワン賞五個が提供されました。引き続き懇親会に移行、健康をたたえたり、口惜しがったり、自慢ののども披露して何時しか時間が過ぎて行きました。

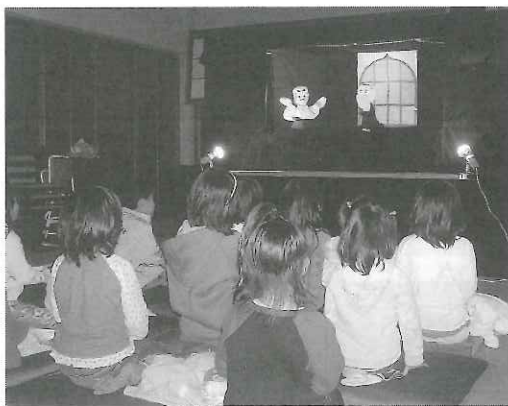
(代表 大津智生)

## 御正忌報恩講



西光義秀御講師 (九州龍谷短大教授)

二十七日の大速夜は御講師を囲んで話し合い法座をしました。



子ども報恩講のようす (11月26日)

中学一年生四人がスタッフで人形劇「おしょうさんとやまんば」を上演してくれました。

## 敬老会



感動のグランドフィナーレ!! (10月12日)

地域グループ「夢和会」の芸能をたっぷり楽しみました。

### あとかぎ

「飲んだら乗るな。乗るなら飲むな」この頃特に、飲酒運転による重大事故が頻発し、飲酒運転撲滅キャンペーンが盛んに行われている。

食事の席での飲酒はごく自然な行為であり、法事のお斎にもお酒がよく出される。「まあ一杯ぐらいただいたら」と、すずめる側も受ける側も軽い気持ちで酒を酌み交わすこともあった。警察に捕まらなければよいのではない。飲酒運転はかけがえのない人の命を奪い去り、また我が身をも滅ぼしてしまう愚かな行為であるということ。重々肝に銘じたい。